

2月号

第444号

いっしん

令和4年(2022年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

記しおけ
心のそこに
いつまでも
わが救われし
その始めをば
甘本親教会
初代教会長
安武松太郎師神教

立教163年／教祖様139年／教団独立122年／小倉教会布教137年／
甘本親教会布教118年／加治木教会布教71年



少年少女会

「鏡開き」開かれる

令和四年一月九日(日)

お正月の少年少女会の例会「鏡開き」では、例年お鏡モチ入りのぜんざいと七草入りのたこ焼きをみんなで作って頂いていました。

しかし、お正月明けから鹿児島県内でもコロナウイルス・オミクロン株の流行が著しかったので、みんな一緒に会食をしないことになり、ぜんざいはなしで、マスクをして手指の消毒に気をつけて、タコ焼きだけを作り、お持ち帰り（テイクアウト）のファミリー会食としました。

また、前日の八日には、スーパーのパック入りの「七草セット」が売り切れていましたので「七草たこ焼き」ではなく「七種ななくさたこ焼き」となりました。

急ぎよ、七種類の材料で作ったという意味に変更となりました。

七種類は、タコ・チーズ・ウインナー・エビ・小麦粉・卵・かつお節
ってとこでしようか？ (フキイタ)

少年少女会「鏡開き」…P1・P7
連合会定期総会 信徒感話…P4～6

連合会定期総会 教師講話…P2～3
教会行事…P8

鹿児島地方教会連合会

定期総会

令和四年
一月二十三日

講話・信徒感話

総会議事の後、教師一名・信徒各一名により、講話・感話があり、要点的な掲載。

講話

『教団の願い』について

安武秀信先生（大口教会長）



今年の『教団の願い』は、「教祖様の『神人物語』をお手本に、それぞれの『神人物語』を編む」

でありまして、この内容は、神様との関わり方の再構築することで、すなわち神様との関係を立て直すことで、ポイントは『神と人との縦軸』を構築するということです。

「縦軸」とは、神様が私たち氏子を救い助けようとされてのお働きかけをもって神様とつながることです。

○ そのことを私自身の体験の中からお話させていただきますと、昭和三十年三月十三日、もう六十年以上前で、私が十歳の時であります。私の七つ年上の兄と火薬遊びをしておりまして、その火薬が爆発しまして、兄は久留米医大に担ぎ込まれました。

主治医の先生は、爆発した時にガラスの破片が顔の中に入っており当然眼もやられておるので「両眼失明」と仰ったのです。

ところが、傷が癒えて包帯を取ってみますと眼が見えるのです。

どうしてそのような奇跡的なおかげを頂くことができたかと言いますと、その三か月前の昭和三十年一月の教会の「寒中信行」に私の兄と私

を母がそれも厳しく起こして、朝の御祈念に出らせました。

それを考えてみますと、後々自身が教師になって、だんだんと自分の信心を整理して行きますと、「信心の整理」と言っています。教務総長の言葉で言いますと「神人物語を編む」という意味なのです。

私自身、信心を整理し直していく中で、このときのおかけとはどういうことだったのかなと考えた時に、教祖様は「転ばぬ先の杖を突かせる」とみ教えされていますが、この意味は「神様は大難の前に信心させて徳を積ませる、大難を小難無難に変えてやる」という、そういう意味だと私は受け取っています。

「その三か月後にお前の大切な二人の子供が、両眼失明するような大難に出逢うぞ、それを何としても助けたいと思うのなら、この二人に信心の徳を積ませよ」というメッセージを神様が私の母に下さったのだと思います。

もちろん母はそのような意味はわかりませんが、ただ子供のことを一番心配して願っておるのは母親です

から、その母親の心を神様は揺り動かされたのだと思います。

なんとなしに母親がそのような不安を感じたのでしよう、その時に限ってほんとに厳しく一ヶ月「寒中信行」の朝の御祈念に起こしました。

そのことで私も、両眼失明という大難を免れて、両眼が今日まで見えることができおかげを頂いています。

そうしますと、この母は、神様の差し向けですね。

そして、一ヶ月の「寒中信行」で両眼失明という運命的な大難に出逢うことを変えようとされる神計らいに包まれている自分というものが見えてくるのです。

すると、そうだったのかという思い、教務総長の表現される「そうまでして助けようとなさる神様なのか」ということを改めて思わせられるわけです。

そこで「有り難き・勿体なき・恐れ多き」という「三喜の心」も生まれるのです。

そして、そういう神計らいを「あの時の計らい」というのは、神様あな

たのお働きだったんですね」ということが「神との対話」ということなのだろうと思います。

そのように自分の信心を整理して行く、あるいは「神人物語」を編んで行く中で、回を重ねながら、そのような神様の助けようとなさる神様の「お差し向け」私は「神計らい」と言っておるのですが、そういう「そうであったのか、そこまで助ける神様なのか」という「神計らい」に気付いて行くことです。



『教団の願い』の要は、「信心を整理する」ということ、「神人物語を編む」ということを繰り返して行いまして、「縦軸(神様との縦軸)」を補強し、神様を感じる感性を強化し、それをもって取次の内容を充実させて行き、それをもって教会の活性化・教団の活性化を計って行こうとなさっておるのかなと思います。

【質疑応答】

問い《出席教師》「教団の願いと言ったものは、少し難しいです。」

答え《安武秀信師》自分が大事にしておる信心を補強して行く方向で教務から流れてくる内容を使って行くということをしませんが、そちらにまるまる乗っかって行くということかと思いますが、間違ってしまうことさえあります。

あくまでも、自分の信心というのを土台にして、そこから聞かせてもらうのです……。

(おわり)

連合会定期総会

信徒感話

今年の信心目標

満留真喜子氏（串木野教会）

今日は私の言葉で私の感じたこと
をお話しさせていただきたいと思
います。

私は、串木野教会に生まれて、も
うそろそろ還暦を迎える年になっ
ております。

串木野教会の両親と私の息子と息
子の嫁(息子の瞬さん夫婦はご本部に
て御用)の四人が教師の御用をさせ
ていただいています。

私は三人姉弟の長女で、弟が二人
おります。うちの両親からすればへ姉
弟三人からだれか一人くらいお道の
教師に〜と思うていたのかも知れま
せんが、それが三人ともできており
ません。

それに対して、教会長や父に対し
ていつもへ申し訳ないな〜という気
持ちを持っておりました。

それで、私の息子(教会長の孫がお
道の御用に就かせていただいくとい

うことになった時に、うちの息子に
対してへほんとに申し訳ないな〜と
いう気持ちとへありがとう〜とへこ
めんね〜という気持ちがすごく強か
ったので、お祖父ちゃんお祖母ちゃ
んと孫の間を繋ぐ御用が、私にでき
るのではないかと思つて、今、日々
を送らせてもらつております。



○
今年の串木野教会の信心目標が
「改まりをお供えしよう」でした。
うちの教会長がなぜこの目標を持
ってきたのか、その真意は聞いてお
りません。

元日に信心目標が上がった時に
へ改まりをお供えしよう〜ってなん
だろう、何ができるんだろう〜と、

ちよっとだけ振り返りました。

その時に思い出したのが、四年前
の九十年の記念祭のできごとでした。
九十年の記念祭をさせていただい
て、一年くらい前からみんな準備
委員会とかをさせていただいてい
たのですが、うちの教会長も少し気が
強いところがありまして、突っ走る
ところがあるので、ひとつの物事に
対して家族の中でも喧々囂々で、い
ろいろ言い争うようなこともありま
した。

○
そうして何日か口を利かないとい
うようなこともありました。

そんな時に、出水から娘が来ると、
娘のいる間だけは、みんな和やかな
雰囲気になつて話ができるのです。

教会の中で信者さんと、教会長と、
うちの父、遠隔地ではありませんがう
ちの息子、出水にいるうちの娘、み
んなとコミュニケーションを取るこ
とで、記念祭という行事を執り行え
るのではないかなと、その時に思わ
せていただいています。

○
記念祭の年の、三月に息子の結婚
式があつて、御本部で結婚式をさせ

ていただくということ、私の弟たち二人と、父の兄弟二人叔父叔母に当たりますが、従妹を除いてほとんど全員が御本部に集まることができました。

うちの弟たちも御本部にお参りする事は、今までほとんどありませんでしたので、それができたのがとても良かったかなと思います。

母も感動していました。自分の子供たちが三人そろって御本部にお参りでき、今までなかったことが、孫の結婚式ででき、そして串木野教会の跡継ぎである瞬がお嫁さんをもたらしたということも含めて「記念祭の年にこういうおめでたいことができ、て良かったね」という話をしていました。

しかし、ここでまだ、記念祭は五月だったのですが、四月に御本部で教会長が転んで骨折をしました。

串木野に戻ってきてすぐに入院しました、そこから二週間ほどでしたが、記念祭まであと一ヶ月余りとなった時になって入院することになりました。

○

当然、準備もうまくいっていないのに、教会長は毎日毎日イライライライラして、病院の中から「あれはもうなったの、これはどうなったの、返事は来たの、名簿はできたの、手配はできたの」と日々の御用、誠にありがたいことに存じ上げます。電話がかかってくるような状態でした。



平成30年5月20日

その時、私と父が教会に残されて、当然コミュニケーションを取らないわけにはいかないので、すこく話をする機会が増えました。

そのときに思ったのは、へケガをして記念祭の準備ができない、うまくいかないということが、

ちょっと頭を冷やしなさい。あなたたち、だれのための記念祭なの、人が喜ぶことをすこく一生懸命考えていたけど、そうではなくて神様が喜ぶための記念祭じゃないの

と、そう考えさせられました。そのような、父と二人で準備をする二週間だったと思います。

これがあったことで、私の思いも当然変わりました。

それまでは「人が喜ぶために」とか「父と母が喜べばいいかな」とか、そのようか考えを持っていましたが「神様が喜んでくださるために私は何ができるだろうか」ということをもう一度考えさせられる機会となりました。

そこから「神様が喜んでくださるもの言い方は何だろう、お手紙の書き方はなんだろう」とか、そのように思うことが少しずつ私の信心が少しずつ進んで行ったんじゃないかなと思います。

今年の信心目標の「改まりをお供えしよう」という、その改まりが、私が記念祭に感じたこと、考えたこと、向き合ったこと、その心を忘れ

ないこと、それを毎年毎年思い出し
て行くこと、それを神様にお供えす
る、それも今年の私の信心目標にな
るのではないかと思います。

○

今まで何こともなく生活してこれ
たのは、神様のおかげを頂いてたか
らだ、病気もしなかったことがおか
げだったんだ、何事もなくこの六十
年近く生活できてきたこと、子供も
親子無事に大きく育ってくれたこと
孫が五人も産まれたこと、すべてに
関して、神様のおかげを頂いていた
からだということに、毎年毎年改ま
りと共に、そこを考えて行かなけれ
ばならないのかなと思っております。
私の役目はまた重ねて申しますが、
教会の中で先生方と信者さん、そし
て教会の全体を繋いで行くのが役割
だと思っております。

あと六年後の百年記念祭に向けて、
教会の中でのみんなの懸け橋という
役割を持って、神様に向かいながら、
お礼の気持ちを忘れない生活をさせ
ていただいで行きたいなと思ってい
ます。

(おわり)

感 詠 (教会長)

目覚めたる時に御礼喜びの

心になれと礼ぶ稽古を

どのような難儀なことの中にも

受け続けおる恵み探さむ

コンサート・会議・研修・宅祭と

遠距離結びりモートとなり

寒きこと恵まれたるを探すより

嘆くことのみ多くはなきか

蔓延を防止できるを祈りおり

困る人々助かるように

あしあと

加治木教会行事記録

1月

1 (祝) ●元日祭 正午

3 (月) 甘木親教会年頭参拝

8 (土) 清掃御用 10時

9 (日) ★年少少女会「鏡開き」10時半

10 (祝) ●月例祭・成人感謝祭10時半

14 (金) 連合会執行部会(上流田)10時半

21 (金) 清掃御用 10時

22 (土) ●月例祭・共励会 13時半

23 (日) 連合会定期総会(鹿児島)10時

31 (月) 清掃御用 10時

ご霊神様のおまじ

二月

桐野ケサノ之霊神(1日)昭和9年

桐野秋子之霊神(3日)昭和7年

中村照子之霊神(4日)平成15年

星原春雄之霊神(5日)平成24年

吉屋安光之霊神(8日)平成1年

川畑正徳之霊神(12日)昭和23年

矢野政美大人之霊神(12日)平成11年

野元和子之霊神(13日)平成30年

小屋敷慶二之霊神(14日)平成4年

川畑助太郎之霊神(18日)昭和23年

最勝寺剛藏之霊神(18日)昭和47年

平島タキノ之霊神(18日)昭和52年

福山一間之霊神(20日)平成16年

川畑幸正之霊神(21日)昭和21年

中村正義之霊神(21日)昭和21年

野口ミヤノ之霊神(22日)昭和60年

永原初男之霊神(22日)平成22年

大山テル之霊神(22日)平成27年

平島房代之霊神(24日)昭和6年

中島武夫之霊神(24日)昭和50年

桐野ケイ之霊神(25日)昭和2年

前田京子之霊神(25日)平成14年

山下ヒサエ之霊神(28日)平成2年

宮内ミツル之霊神(28日)平成13年

「先祖のご霊神様の、現世・幽界(かくりよ)でのお働き
あつての今日の私たちであります。立日の月には、故人
を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会
では、十日の月例祭で、霊前で霊祭をお伝えし、「ご家族の
玉串を奉てんを準備をしています。」

少年少女会

(1ページのつぎ)

「鏡開き」開かれる

令和四年一月九日(日)

いろいろな種類の、天地のお恵みが味わえるたこ焼きができてあげりました。

また、おうちで頂くときには、閉会式でお話していただくように「食前訓」「食後訓」を唱え、天地のお恵みにお礼を申して頂くことができましたか。



コロナ禍の中での少年少女会「鏡開き」は、いつもとはちがう午前中だけの開会となりましたが、信心の勉強も、なんとか楽しくできたのではないのでしょうか。
紙芝居「としがみさまとおしょうからがつ」では、お正月の風習の意味を勉強することができましたし「のねずみとまちのねずみ」では勤勉に働くことの大切さを知ることができましたね。



二月十七日(木)

甘木親教会

報徳祭参拝

引き続き 初代・二代教会長例年祭

二月二十三日(祝水) 十二時より

前日、清掃御用

報徳祭奉仕

並びに 矢野政美大人例年祭

教話 多良木教会長

梅木博光先生

《隣接・関係教会 報徳祭》

二月二十七日(日) 多良木教会

午前十一時より

一月二十五日〜二月八日
報徳祭奉迎 (御本部信行期間感話視聴)

寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時

教会行事

2月

1 (火) ●報徳月例祭 10時半

※御本部信行期間講話ビデオ研修

4 (金) 甘木親教会初代立日

10 (木) ●報徳月例祭 10時半

17 (木) ●甘木親教会 報徳祭 11時

21 (月) 清掃御用 10時半

22 (火) ●月例祭(祭典のみ) 10時半

// 祭典後 清掃御用

23 (祝水) ●加治木教会 報徳祭

26 (日) 多良木教会 報徳祭 11時

28 (月) 清掃御用 10時半

《未定行事》青年会・若婦人会

「改まりの願い」(加治木教会)

自己中心の信心から

親神様の御立場に立った信心に、

親神様を使う信心から

親神様にお喜びいただき

「安心いただく信心に、

おかげを信じる信心から

親神様・ご神慮を信じる信心に、

改まらせていただく。

3月

1 (火) ●報徳月例祭 10時半

3 (水) 甘木親教会参拝日(信者集會 催徒 感話発表当番)

9 (水) 清掃御用 10時

10 (木) ●報徳月例祭 10時半

13 (日) 矢野クラ刀自立日 十時 御祈念 鹿兒島

12 (土) 13 (日) 典楽講習会 教金

19 (土) 清掃御用 10時

21 (祝月) ●春季靈祭 10時半

22 (火) ●月例祭・共励会 13時半

31 (木) 清掃御用 10時

4月

2 (土) 3 (日)

●御本部天地金乃神御大祭 参拝

典楽講習会

三月十二日(土) 13:00・十三日(日) 10:00

鹿兒島教会にて

琴・龍笛・笙・箏・太鼓